

地域公共交通の課題（未定稿）

1. まちづくりや観光振興との連携による公共交通の活性化

- ・総合戦略事業や都市計画マスタープラン等の戦略的なまちづくり施策と連携するとともに、安房地域の交通結節点であり、観光客等の来訪者の玄関口になっているという優位性を活かし、魅力的な公共交通を構築することで、新たな交流人口を取り込み、減少傾向の生活系公共交通需要を補完する需要を掘り起こすことが必要である。
- ・館山病院や館山警察署の移転計画、商業施設立地の現状と整合した公共交通を確保する必要がある。

2. 地域の実情に合わせた公共交通対策の取り組み

- ・市内各地域は、それぞれ置かれている状況や課題が異なることから、公共交通についても、各地域の実情を考慮し、ニーズを把握しながら取組の検討を行う必要がある。

3. 過度な自家用車利用の抑制と利用促進による公共交通の維持

- ・市民の日常の移動手段のほとんどは自家用車移動であり、路線バスやタクシーは鉄道駅からの移動手段の一部として機能しているが、利用者は年々減少し、加えて深刻な運転手不足等により、既存バス路線やタクシー営業規模の維持が危ぶまれる状況である。
- ・「高齢などの理由で、いつかは自家用車を運転できなくなる時が来る」ということを市民に認識してもらおうと同時に、健康面から見ても過度な自家用車への依存は好ましくないことから、「たまには公共交通を使ってみよう」と思ってもらえる環境を作っていく必要がある。

4. 将来の自家用車の運転に不安を抱えている高齢者の足の確保

- ・市内の高齢化率も高く、郊外の集落部においては、高齢になっても自家用車を手放せず将来の移動に不安を抱える高齢者が今後益々増えてくる可能性があることから、潜在的移動ニーズに合った利用しやすい公共交通体系の確保が必要である。

5. 周辺隣接自治体との連携による広域的かつ一体的な公共交通ネットワークの確保

- ・館山市内間の移動にとどまらず、隣接する南房総市等から通勤・通学してくる流れも大きく、その先の木更津市や君津市、千葉市等に通勤・通学している人も一定数いることから、地域内の移動手段となっている路線バス及び都市間移動を担う内房線、高速バスのあり方について、南房総市をはじめとする近隣自治体と連携し、ニーズに合った広域的な公共交通ネットワークづくりを検討していく必要がある。
- ・特に南房総市とは生活圈を共にし、ほとんどのバス路線が2市にまたがって運行されていることなどから、南房総市の公共交通政策と十分に連携し整合のとれた計画とすることが重要である。